



No.41

2021.05.11

シニアの学び舎

レイカディア大学だより 草津校

シニアが新しい教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援しています

第41期生 149名卒業



2021年3月26日米原市の滋賀県立文化産業交流館にて第41期生卒業証書授与式(草津校109名、米原校40名の卒業生)が行われました。

ともに学び ともに遊び ともに生きる
仲間に出会い 絆を深めた
レイカディア大学を卒業します



新たな地域の担い手として

クラスで“えにしの会”に登録しました。地域活動続けていきたいです。1年の文化祭の時、手話ソング「365日の紙飛行機」でクラスの絆が強まった事が嬉しかったです。

健康づくり学科 西村さん、中西さん、小澤さん、前田さん

陶芸をもっと学びたくて

友人からレイ大を進められ、5年間学んでいた陶芸教室を辞め、レイ大の陶芸学科で陶芸をもっと学びたくて入学しました。

陶芸を始めた頃からの作品を並べているのですが上達していくのが実感できて今後もズーッと陶芸を続けて行きたいです。

陶芸学科 福永 延子さん

地元の史跡をしらべたくて

入学のきっかけは友人から、レイ大を紹介されて夫婦で意気投合。いろいろな学科がある中で地域文化学科を選んだのはいつもの散歩コースに永原御殿跡があり、地元には史跡が多く、自分たちでもっと調べてみたくて。レイ大での学習の成果を活かし卒業後は地元地域をもっともっと調べていきたいです。

地域文化学科

山本 修さん、眞由美さん

マスクの卒業式

例年は9月に行われる卒業式も、コロナ禍のため6ヶ月間も休校となり半年遅れの卒業式となりました。全員マスク着用で国歌、校歌斉唱は無く、演奏を聞くだけの形で始まり、会場は密にならないよう配慮され、在校生は一部の参列で少なく、粛々と式は進められました。最後の全員の記念撮影では一瞬、マスクを外し笑顔でパチリ！。和やかな雰囲気。

卒業生代表で答辞を述べられた地域文化学科・学科長の西田一夫さんのお言葉に「休校になり大学がいつ再開するのか、卒業式ができるのかと不安でしたが、多くの方々のご尽力で無事に今日の日を迎えられホッとしました」とあり、多くの卒業生からも安堵と喜びの声が聞かれました。

取材／近松・野村・藤岡

第11期サポートの会スタート

第11期サポートの会の代表を務めさせていただきます松瀬徳之助です。よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年より会の名称を「サポートの会」に改められ、在校生とも、より良い意見交換、交流ができる雰囲気づくりに努めてきました。あいにくコロナ禍により大学の6ヶ月間休校、会の活動休止は非常に残念な思いでした。

今年度も在校生が半年間1学年だけという今までに無い状況となっています。今後コロナの状況がどのように改善されるかわかりませんが、会としても会員の交流を深めながらこれまでの学びを活かし、在校生がレイカディア大学で学んで良かった、と思える環境づくりをサポートするのが役目と考えて活動して参ります。

特に、定年延長の影響か近年の入学生減少が課題であり、学生応募増に向け何よりもレイカディア大学の良さを実感した我々が、この良さを世間に広く伝え、認知度を高め、学生募集に力を入れたいと思います。

我々高齢者にとって教養（今日、用がある）と教育（今日、行くところがある）はいつまでも必要です。その学びの場がレイカディア大学であり、ここから更に世界と生き甲斐が広がると、私自身だけでなく多くの卒業生の方が実感されていることと思います。

微力ではありますが、役員はじめ会員皆様のご協力を得て、頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

第11期サポートの会代表 松瀬 徳之助

レイ大で学んで良かったと思える環境づくりをサポートします！



- 第11期サポートの会三役の皆さん (敬称略)
- 代表 松瀬 徳之助 (40期 園芸A)
 - 副代表 廣原 美照 (41期 園芸B)
 - 総務代表 長 幸雄 (40期 地域文化)
 - 総務担当 河野 安明 (40期 健康づくり)
 - 総務担当 西田 一夫 (41期 地域文化)
 - 総務担当 成子 邦夫 (41期 びわこ環境)
 - 学生募集PJ
 - リーダー(兼務) 河野 安明 (40期 健康づくり)
 - サブリーダー 山本 敏夫 (41期 陶芸)

学生募集プロジェクト

43期学生募集開始！

公開講座・学科説明会への参加を勧めよう！！

今期の学生募集案内は、在校生や卒業生のインタビューのページを設けるなど、初めて手にされる方にレイカディア大学の学び舎の内容や、学生生活の楽しさが伝わるように工夫をしました。また、コロナ禍での学生募集活動は、チラシの配布などの活動に制限があり、苦戦が予想されます。

この対策の一つとして、公開講座・学科見学会の回数及び内容を充実させて、有効に活用しようとしております。

この狙いは、学校(学科)説明会での「卒業生との座談会」にあり、応募者が疑問や不安に思っておられることに、卒業生が“ぶっちゃけ”生の声で届けることで、より身近に、親身に感じてもらい、さらに、レイカディア大学の学生生活やその楽しさが伝わることを期待しております。

是非とも、皆様のお知り合いに学生募集案内をお渡しいただき、公開講座や学科説明会に参加いただくように勧めてくださる事をお願いいたします。

学生募集PJ リーダー 河野 安明

学生募集案内のチラシはレイカディア大学や各市町のまちづくりセンター等に置かれています。詳しくはチラシ参照またはレイカディア大学にお問い合わせください。下記は公開講座・大学説明会のチラシの一部抜粋です。

公開講座・大学説明会

全学生が受講する必修講座を公開します。在学生と一緒に体験的に授業を受講できます。(参加費無料)【草津校】

公開日	時間	内容(予定)
6月11日(金) 受付9:30~	10:00~12:00	明智光秀と琵琶湖 ~本能寺の変の原因は琵琶湖にある~
7月9日(金) 受付12:30~	13:00~15:00	想像力を高めて「もしも」に備える ~クロスロードゲーム~

“よく学び、よく遊び”をモットーに！

地域学では、NHK大河ドラマ『麒麟がくる』の明智光秀などの生き様や世界遺産を目指す彦根城を中心とした彦根学を、一方民俗学では、人々の生活に密接した興味尽きない魅力や近江の歴史に深く関わる文学作品の数々を学んでいます。

造詣が深く人間味あふれる当代一流の先生方による講義や現地での説明のたびに、新しい発見をする喜びに思わず我を忘れました。

このような素晴らしい環境にいる私たち42期地域文化学科は、60代から80代で、JICAで活躍した武道の師範や僧侶など多士済々のメンバーに恵まれております。

クラスの仲間は“よく学び、よく遊び”をモットーに、レイカディア大学の講義や校外学習だけでなく、県内外の神社仏閣や史跡などを訪ねたり、休暇村近江八幡などでバーベキューを楽しんだりしています。

コロナ禍で従来の価値観が大きく揺らいでいる今日、すべての人々の願いである人生の生きがいや健康づくりに資するよう今後もこれらの活動を継続していきたいと思えます。

42期地域文化学科 学科長 奥村 良雄



校外学習「彦根城の石垣」を学ぶ

新しい発見に
喜びを感じ！



民俗学の「伊吹民家模型」を見学

42期健康づくり学科



「ラジオ体操第3」動画コンテストに応募。大津市スポーツ協会長賞受賞

愛されるジジババを目指して「新しい仲間との出会いを大切に、笑って、笑って、笑いまくろう！」

私たち42期健康づくり学科は、パワー溢れるお姉様たちと、大人しくシャイなボンボンたちの仲良し集団です。悲しいかな殆どの者がシルバー割引は遠慮なく使うものの、まだ高齢者としての心構えが全然出来ておりません…

何となく健康で活き活きとした生活を楽しむことを目指し「健康寿命を延ばしたい！」と思い始めた段階です。ようやく健康づくり学科での一年間を過ごすことができました。



P(ペーパー)ボール作り



調理実習後の試食

笑って、笑って、
笑いまくろう！

健康寿命を
延ばしたい！

特に選択講座では毎回後半は実技講座となり、健康づくり体操、ウォーキング、調理実習、コミュニケーション能力取得、レクリエーション体験、介護予防、室内ゲーム体験、皿回し体験、救急法実技、認知度自覚などの講座も非常に格調高い内容です。もちろん学生の取り組み姿勢も全て真摯に向き合い習得能力も素晴らしく、今後各方面での実戦部隊として活躍する姿が目に見えます。

今年度も最上級生としてこの調子で頑張っており、卒業後は高齢化社会の一員としていつまでも、きちんと「ありがとう」と口にし、笑いを絶やさず、周りの人々とコミュニケーションをとり、心を通い合わせる事が出来るよう、これからも笑って、笑って、笑いまくりたいと思えます。

42期健康づくり学科 学科長 井上 聡

トピックス

取材

トンボとその仲間たち

《さくら守グループ》

2008年高島市新旭町風車村前さくら街道のさくら守グループ《トンボとその仲間たち》を立ち上げ13年。

当初5人で立ち上げた会も現在では102名。レイ大卒は23名の方が主力で活動しています。

2007年頃より咲かない、枯れだす、病気枝、とひどい状態でしたが、多くの愛情が注がれ見事にさくら並木がよみがえりました。

地域での活動が認められ2020年第8回「おのみ社会貢献賞」を受賞しました。

グループ代表 大石幸夫



40期園芸B 湯浅 清明さん

草津校の40期園芸Bの湯浅清明さんも活動されていてお話を伺いました。「参加のきっかけは同窓会高島支部でこのグループ代表の大石幸夫さんから声を掛けられ、入会しました。まだ間が無いので先輩に教えて頂きながら勉強中です。

肥料やりや下草刈りなど大変な事もありますが、皆、無理せず、楽しんで参加しています。先輩たちが守ってきた自慢の桜並木を大切に守り続けたい。」



枝打ち作業

3月29日、高島市にある《トンボとその仲間たち》のさくら街道“さくら守グループ”の活動取材させていただきました。

この日は年2回の桜の木の剪定日でした。例年は花の咲く前に行われますが今年はまだ咲き始めていました。参加者は37名で5班に分かれて、枝打ちや切り口の殺菌作業が行われていました。

桜の木は全部で654本あり、すべての木に番号が付けられています。天気も良く春の陽射しがまぶしく、咲き始めた桜の花も一気に満開になりそうなくらいでした。

取材／三矢・柏木



大石 幸夫さん、博子さんご夫妻
(お二人ともレイ大米原校 32期園芸学科)

OBは今

取材

趣味を生きがいに

習う側から教える立場に

坂 早百合さん(35期 地域文化学科卒)

本校の卒業生でもあり、地域文化学科「紙芝居制作」の講師を務められています坂 早百合さん取材しました。

長年にわたり学校教師や講師の仕事に携わられ、仕事や家庭から手が離れるのを機に「更なる学びと自分磨きをしたい思いが沸き上がり、入学資格がくる60歳を待ちわびて入学した」とのことです。

紙芝居との出会いはレイ大・地域文化学科が始まりで、ここでは前任講師・今関先生の指導を受けられました。卒業後の次年度授業のサポート、2年間の講師助手を経て3年前の39期生授業から講師を務められています。「紙芝居制作での生徒の皆さんたちは、初めは戸惑いを感じていますが、卒業時には素晴らしい作品に仕上がっています。幼稚園やデイサービスセンターなどに出向いて行う公演での出し物はいろいろと工夫がされていて皆さん凄いですよ！」と嬉しそうに話されました。

レイ大を卒業し「習う」から「教える」立場になり、今思うことは「シニア世代で、再び人生を謳歌している姿に感銘を受けます」「好きなことを見つけたら一歩踏み出すことが大切、事を始めるのに年齢制限はありません」「一つの趣味に止まらず、仲間の輪を広げていただく楽しさを知って・・・」など経験豊かな坂さんのお言葉です。

そんな坂さんは、紙芝居の他にも自身のライフワークとされている「切り絵」や「折り紙」「絵手紙」の創作に取り組みられ、サークルやグループへの指導に多忙な日々を送られ「趣味を生きがいに」の実践をされています。



地域文化学科で講師を務める坂さん



お得意の「切り絵」で紙芝居を制作

取材者の一人が39期地域文化学科の当事者でもあり思い出に花が咲くひと時でした。坂先生には益々のご活躍を願うことは元より、第二の坂先生を育てて頂くことを願いながら取材を終えました。

取材／森下・西嶋



編集後記

広報情報部会は10期から11期にバトンタッチされ、新体制で慣れない事で戸惑いながら、先輩方のお力を借りながらのスタートになりました。

卒業式が3月になり、10月の入学式までの半年間は二年生のみとなります。サポートの会、広報情報部会としても賑わいのある大学生活が送れるよう応援し、よりよい情報発信が出来るよう努力したいと思います。(A. K)